

# 病理専門研修プログラム

信頼され、求められる病理医と一緒に目指そう！

募集定員  
**2名**

研修期間  
**3年**



## 責任者からのメッセージ

病理診断科科長  
病理学講座腫瘍形態病態学分野  
教授 佐藤 勇一郎



宮崎大学附属病院病理診断科では、全科・全領域にわたり、病理診断をしています。指導医とマンツーマンで、マクロ・ミクロの病理標本をみながら、基礎的な標本の見方から希少症例や難しい症例の診断まで経験することができます。病理解剖も執刀医として行い、全身臓器の病理所見、さらに患者様の全体像をとらえる重要なトレーニングがつめます。宮崎県内の連携施設、病理医との関係が強く、連携施設での研修も可能です。学会活動や研究も積極的に行っており、日本病理学会や九州沖縄支部スライドカンファレンスにも参加、発表、論文発表も行っています。宮崎県内の病理医も少しずつ増えています。宮崎大学で、一緒に病理医としてのトレーニングをつんでみませんか。

## プログラムの特徴

- 全領域にわたる豊富な症例を指導医とともに経験できる。
- 各診療科とのカンファレンスがおこなえる。
- 執刀医として病理解剖を行い、全身臓器に精通できる。
- 宮崎県内全ての病理医から指導が可能で、連携施設での研修も可能。
- 病理学会、九州・沖縄支部スライドカンファレンスにも積極的に参加、発表、論文作成も行える。

## 取得可能な専門医資格および技能

**病理専門医**：病理解剖、生検、術中、手術材料の病理診断、細胞診が早く正確な診断が行える。  
**解剖資格医**：解剖を安全にかつ正確に行える技能を身につける。  
**細胞診専門医**：細胞診を正確に行い、細胞診技師を指導できる。  
**分子病理専門医(新規)**：分子病理に精通、病理検体の管理・提供、遺伝子解析が行える。

## プログラム達成目標

病理専門医は病理学の総論的知識と各種疾患に対する病理学的理解のもと、医療における病理診断(剖検、手術標本、生検、細胞診)を的確に行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保するとともに患者を正しい治療へと導けることを目標とする。生検、術中病理診断、手術材料の診断においては、診断が比較的容易で症例数の多いものからはじめ、希少症例、難解症例では鑑別診断をあげられるようする。剖検では、執刀からCPC、および報告書作製まで行い、全身臓器に精通し、症例をまとめる能力を身に着ける。

## 日課タイムスケジュール

時間	病理診断当番	解剖当番
AM	生検・手術検体診断	病理解剖
PM	指導医による診断内容チェック 手術材料 切出	追加検査提出、症例まとめ記載

## 週間スケジュール(宮崎大学医学部附属病院の例)

月	火	水	木	金
産婦人科合同 カンファレンス	外科 カンファレンス	産婦人科術前 カンファレンス	神経放射線病理 カンファレンス	解剖症例肉眼 チェック
頭頸部 カンファレンス(隔週)	泌尿器科 カンファレンス(隔週)	骨髄生検 カンファレンス	外科病理抄読会	
呼吸器 カンファレンス(隔週)	腎生検 カンファレンス	C P C	研究検討会	

## 指導医からのメッセージ



盛口 清香

皆さんのが思う病理医って、どんな感じでしょうか？ 華やかではありません。患者さんに、ありがとうございますと言われることも、ほとんどありません。地味と言えば地味です。でも、私が顕微鏡みて下した診断が、患者さんの治療に繋がると思うと、気が抜けない、重要な仕事だと誇りに思っています。そんなお仕事、一緒にやってみませんか？



梅北 佳子

もともと臨床医志望でした。学生時代の病理学の授業や試験は記憶ないです。私にとって病理とは、そのくらい縁遠い世界でした。研修医時代、同期が病理を選択していたので、つられて私も選択してみました。それが運命の出会いでした。意外に自分に合っていることに気が付き、入局、今に至ります。病理診断の楽しさを短い文章でお伝えするのは難しいです。少しでもご興味があれば、まずは一ヶ月、病理診断科で研修してみましょう！

## 先輩からのメッセージ



都築 謙

病理診断科で専門医研修3年目の都築です。学生時代はあまり病理に興味が無く、漠然とムズカシイものという印象でした。研修医の時に病理をローテーションした際に、診断病理を経験することで、病理の魅力に引き込まれました。ただ組織所見を見つけるだけではなく、なぜそのような組織像になったのか、考えることは非常に面白いです。また上級医とのディカッショングで新たな解釈を学ぶことができ、成長が実感できます。嗜めば嗜むほど味が出てきます。他にも病理医の魅力があり、ベッドフリーなので時間の融通が効きます。仕事とプライベートを両立したく、顕微鏡で見ることにアレルギーがない方は向いていると思います。病理医も選択肢として如何でしょうか？



黒木 麻由

専門医研修2年目の黒木です。学生時代に研究室配属をきっかけに病理に興味を持ち、入局するに至りました。病理に対する印象を聞いてみると多くの学生や先生方から「難しそう」「試験が厳しかった」「よく分からぬ」といった声をよく耳にします。一般の方からあまり知られていない実情ですが、しかし最近では漫画の題材になったほか、芸能人の発言で取り上げられたことにより少しづつ知名度を得てきています。どんなきっかけであれ、病理について知り、興味を持っていただけたら嬉しいです。一緒に病理医として働く仲間が増えることを待ちにしています。

## お問い合わせ先

T E L : 0985-85-2809  
F A X : 0985-85-2809  
担当 : 佐藤 勇一郎  
e-mail : yuichiro\_sato@med.miyazaki-u.ac.jp

病理HP  
<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/pathology/>

